

派遣期間 2011年4月～2014年3月  
北見市立東小学校 教諭 岩崎 直希

## 1 シンガポール共和国の概要

アジアの中心に位置するシンガポールは、活気溢れる、世界有数の都市国家です。すばらしいビジネス環境、世界各地への優れたアクセス、そしてその革新性により、世界中で認知されるようになりました。

高い生活水準、安定した政治環境、コスモポリタンな装いの都市国家は、仕事、生活いずれをも楽しめる場所として理想的です。



### (1) 気候

ケッペンの気候区分においては、シンガポールは明確に区別できる季節分け（四季や雨季乾季）ができず、一年中気温と湿度が高く、降水量が多い熱帯雨林気候に属すると言われています。

しかし、実際に住んでいる国民は11月～2月頃までを雨季と言っており、その時期は北東モンスーンの影響で雨の降りやすい季節となっています。雨が降ると言っても日本のように1日中降り続くことはなく、短時間（数分～数時間）で止みその後は青空が広がります。

### (2) 民族

多国籍国家といわれるシンガポールを歩くと、多様な民族と接することができます。また、地下鉄内では、その言語の多さにも驚きます。多くの国から集まるシンガポールでは、多くの民族と宗教が仲良く共存しています。その証拠として、イスラムの祝日、仏教の祝日、ヒンズーの祝日など、各宗教の祝日がナショナルホリデーとして位置づけられています。

中国系	75%
マレー系	15%
インド系	8%
その他	2%

仏教	33%
キリスト教	18%
イスラム教	15%
道教	11%
ヒンズー教	5%
その他	1%
無宗教	17%





仏教寺院 仏歯寺



イスラム寺院  
サルタン モスク



ヒンズー寺院  
スリ・マリアマン寺院

### (3) 歴史



シンガポール建設者  
ラッフルズ

シンガポールには、ラッフルズホテル、ラッフルズシティー、ラッフルズ学院など「ラッフルズ」という名を冠にした場所や通り、学校、企業が多くあります。「ラッフルズ」とは、シンガポールの歴史において「建設者」として特別な地位を与えられた人物、トーマス・スタンフォード・ラッフルズです。

ラッフルズは、ロンドンと西インドを往復する小さな定期船の船長を父とする家庭に生まれ貧しい幼少期を過ごしました。その後、14歳でイギリス東インド会社の臨時職に就き家計を助けていました。イギリス東インド会社は、香辛料貿易の特許を得て膨大な利益を生み出しました。会社はその勢力を拡大するとともに、ラッフルズはマレーシアのペナンの商館へ赴任しその後、ジャワ副総督、ベンクーレン副総督の任に就いて、イギリスのアジア植民地政策の決定に重要な役割を果たすようになりました。ラッフルズは、あらゆる面でシンガポールをアジア貿易の中心地にしようとししました。中継貿易の拠点として栄え、3年も経たないうちに名もない漁村が、1万人以上が住む大きな活気ある町になり、商業が活発に行われ始めました。

### (4) 教育制度

シンガポールは 2012 年 OECD(経済協力開発機構) が実施している PISA 調査の結果、数学的リテラシー 2 位(日本 7 位)、読解力 3 位(日本 4 位)、科学的リテラシー 3 位(日本 4 位)、という好結果を残しています。2009 年からの参加のためそれ以前のデータはないが、いずれの分野においても世界を牽引するほどの高い学力を有しています。

今回の派遣の目的の一つでもあるシンガポールの教育制度を現地ローカル校などの訪問を通して学ぶ機会が得られました。

【受験制度】 クラス編成テスト 小学校 4 年生・6 年生  
中学校入学受験 小学校 6 年生 全児童

## 高校受験 大学受験

※ 4年生のテストでつまずいてしまうとその後のクラス編成で取り返すためには、相当の努力が必要になるため小学校入学から子どもたちは塾に通うなどして勉学に精を出している。

※ 中学には4種類の校種がある。総合プログラム、エクスプレス、ノーマル（普通）、ノーマル（技術）。総合プログラムに入学すると4～6年の学習期間を経て、Aレベルの大学入学の資格を有することができるなど、そのレベルの中学校によって、受験資格を得られる高校、大学がほぼ決定する。

【校区】 校区を設けていないため、保護者が学校を自由に選択できる。そのため、学校での特色ある教育を実現しようと懸命である。

### 【中学校の種別】

- ・ Specialised School ～ 4 - 6年制。最も高いレベルの校種。  
中高一貫教育で、大学への進学では受験する。
- ・ GCE'O'レベル ～ 4年制  
全校種の高校受験資格を得ることができる。
- ・ GCE'O'/'N'レベル ～ 4 - 5年制  
全校種の高校受験資格を得ることができる。  
Oレベルよりは下位レベルのため、上級校への希望は厳しい。
- ・ GCE'N'レベル ～ 4年制  
ITE SCHOOL(職業訓練校)への入学資格が得られる。
- ・ ISCレベル ～ 2 - 4年制  
ITE SCHOOL(職業訓練校)への入学か、就職コース。

### 【高校の種別】

- ・ 中高一貫 ～ 大学レベル
- ・ Junior College ～ 普通高校
- ・ Polytechnics ～ 専門科
- ・ ITE ～ 職業訓練校

シンガポールの国立大学は、シンガポール国立大学、南洋理工大学がありシンガポール大学は、高等教育専門誌 Times Higher Education から発表されたものによると26位（東京大学23位、）南洋理工大学は76位（京都大学52位）にランクされています。

多国籍国家にある大学だけに、世界各国から留学生を受け入れ、グローバルな世界に開かれた大学としても知られています。



シンガポール国立大学

シンガポール政府が教育予算として計上している額は、国家予算の20%前後です。徴兵制度のあるシンガポールの国防費が国家予算の25%となっていますので、国防費に次ぐ予算となります。この比率から見ても教育へかける国の姿勢を感じ取ることができます。

授業はほとんどが討論形式で行われます。子どもたちは、自分の考えを論理的に説明するというのを徹底されています。そのため、必ず自分の考えを手元の小さなホワイトボードに書いて意思表示をする姿が印象的でした。

ローカル校は、2カ国語を学びます。一つは英語。もう一つは母国語です。多国籍ですので中国語、マレー語、タミール語などを学ぶ児童が多いようです。

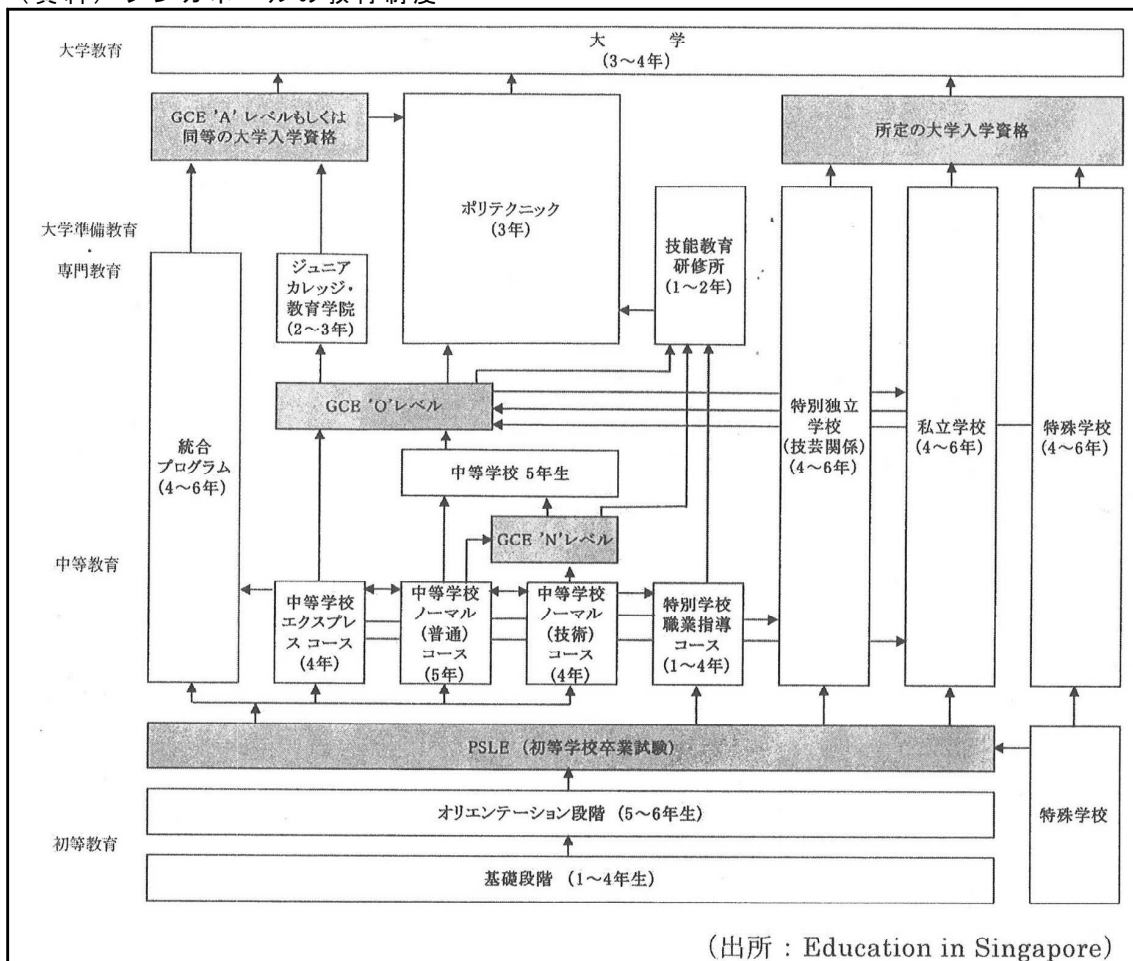


ローカル校授業風景



充実した蔵書を保つ図書館

(資料) シンガポールの教育制度



## 2 シンガポール日本人学校小学部チャンギ校の特色ある教育活動

本校は「確かな学びと国際感覚豊かな子どもの育成」の学校テーマのもと、シンガポールという南国の地と多国籍文化をもつという国の特色を教育活動にも反映させた様々な特色ある教育活動を展開しています。以下にいくつかの特色ある活動を紹介します。

### (1) イマージョン授業

音楽と体育の授業は、現地の講師が英語で学習を進めます。水泳授業は、1～6年生で週に1時間。音楽は1～3年生で週に1時間行われます。

シンガポールの公用語である英語に日常的に触れられるようにしています。



現地スタッフによる水泳授業

### (2) 英会話

英会話は1年生～6年生まで週に3回行います。クラスは13クラスの少人数指導で行います。現地英会話講師が、個々のレベルチェックを行い、レベル別クラスに分けられます。

日本人の英語主任は、主に週1時間のフォニックス（発音）と文法（文法）指導を担当します。

学校で年に2回の英語検定試験も受けられるため、準1級をめざして英会話の学習に力を入れる児童が多くいます。また、保護者の関心と期待が非常に大きい教育活動の一つです。



少人数で行われる英会話授業

### (3) 民族音楽

年に1度、シンガポールの音楽団体による音楽演奏を鑑賞する民族音楽の時間があります。多国籍国家であるシンガポールであるため、チャイナ系、インド系、マレー系の音楽団体を3年に1度のサイクルで招待するため様々な民族音楽に触れることができます。



現地音楽団体による民族音楽

#### (4) 外国語活動

週3時間の英会話の他に週1時間の外国語活動も日本の学校と同じように行います。

担任が授業を進め、英会話講師が発音などのお手伝いをしてくれます。

特色があるのは学習内容にあり、実際に学校近くのホーカーセンター（屋台）へお昼ご飯を食べに行き、学習した会話スキットを用いて注文をしたり、会話をしたりします。その他に現地校との交流で用いる会話の事前練習、修学旅行での荷物の預け方など日常生活に直接生かすことができる内容を中心に年間35時間学習します。



店員に注文する児童

#### (5) 民族衣装デー

中国の旧正月（チャイニーズ・ニュー・イヤー）に合わせて「民族衣装デー」を設定しています。この日は、世界各国の民族衣装を着用して登校します。児童とともに教員・スタッフも一同に思い思いの民族衣装を着用します。世界の国々の文化を知ることのできるよい機会となっています。



注文したメニューでお昼ご飯

#### (6) ライオン・ドラゴンドانس

「民族衣装デー」と同日に中国の旧正月（チャイニーズ・ニュー・イヤー）を祝う伝統の踊り「ライオン・ドラゴンドانس」鑑賞を行います。

中国の伝説では、怪物のような生き物ニエンが畑や作物、家畜を毎年チャイニーズ・ニュー・イヤー前夜に破壊してきたそうで、その暴威を終わらせるため、村人たちは竹や紙を使ってある動物の恐ろしい模型を作り、大きい太鼓を打つ音とともに、パペットのように操ってそのどう猛なニエンを怖がらせました。

村人の精巧な計画は成功に終わり、それ以来ライオンダンスはそれを祝うために毎年行われるようになりました。



様々な国の民族衣装で登校する児童



1500年以上の歴史をもつ  
アクロバティックなダンス

(7) 特別支援教育

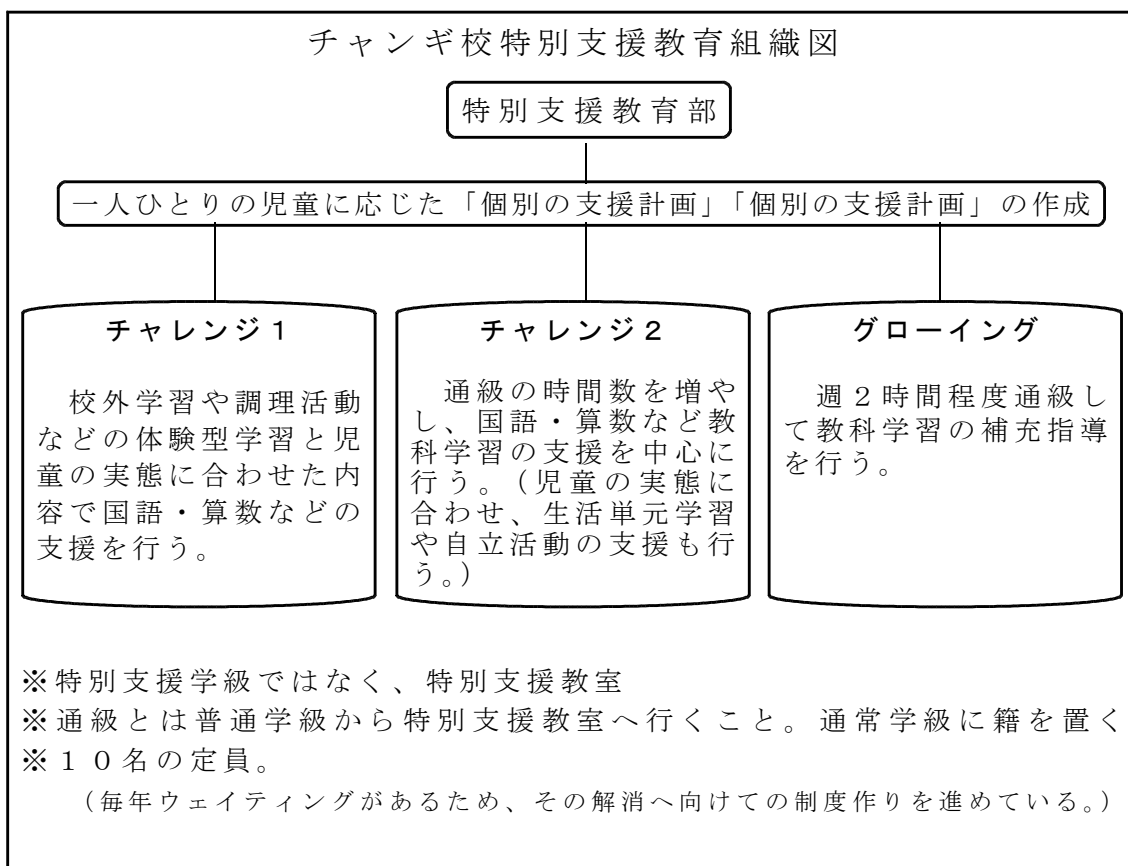
在外教育施設において、特別支援教育システムをもち、独自に就学支援委員会を開き、編入学の手続きをしている学校は数少ないのではないのでしょうか。

本校では、通常の学級に在籍を置いて、特別支援教室への通級という形をとり、個別の支援を行っています。特別支援教室の担当教諭は、文科省からの派遣教員がコーディネーターを務め、現地採用教員、専任講師の合計4名体制で10名の児童を担当しています。

特別支援教室は、3教室ありそのクラスは、自立を主として学習する「チャレンジ1」、学習のサポートを主とする「チャレンジ2」。週2時間の通級でその児童に応じた支援を行う「グローイング」という3つのクラスに分かれています。詳細は以下の通り。



年に1回のまとめの発表会



年に6回保護者との個人懇談を学級担任・コーディネーター・支援教室担当教諭を交えて行っています。学校での様子や今後の指導方針、進路等についての情報交換を行い、家庭との連携を密に図っていくようにしています。

### 3 3年間の赴任を終えて

シンガポール日本人学校勤務とシンガポール共和国での生活から実に多くのことを学ぶことができました。そのうち歴史と平和について改めて学ぶ機会がありました。

シンガポール共和国は日本軍による占領が終戦までの3年半続きます。その戦時中の出来事が分かるミュージアムが本校からバス停4つのところにあります。このチャンギミュージアムには、日本軍がマレーシア・シンガポール侵攻の際に残された写真や手記等が展示されています。本校6年生も歴史の学習として見学に行きました。シンガポールからの視点で展示、説明が書かれており、日本とは違った視点から戦争の事実に向けることができました。

最も印象的であったのは、見学の際に通訳としてお世話になった保護者の方でインドネシア国籍を持つ方のお話でした。『私たちインドネシア人は、決して日本の人々を憎んだり、恨んだりしたりはしていません。インドネシアには、今も日本軍が作った道路や水道などのライフラインが役立っています。私たちの今の生活を支えてくれているのも日本の人々のおかげなのです。昔の暗い歴史は変えられませんが、これからの未来は変えられるのです。』という言葉でした。

シンガポールでも日本と同じく、多くの戦争資料館を管理したり、戦争跡地を整備したりしながら後世に戦争の怖さ、平和の尊さについてを伝えていました。平和の尊さについて、シンガポールにいたからこそ海外からの視点で感じ取れたこと、知ることができた事実、今に生きる人々の声を今後、教育活動の中で、これからを生きる子どもたちに伝えていきたいと思えます。



日本軍上陸跡地



チャンギミュージアム見学



マーライオンと立ち並ぶオフィスビルタワー



シンガポール日本人学校 小学部 チャンギ校